

発表要旨フォーマット	
演題名	薬局管理栄養士としての患者アプローチと薬剤師との連携 ～70代女性DM患者の事例報告～
演者	田代 陽子、牛尾 裕美、香月 正明
所属	総合メディカル株式会社 DtoD 薬局本部 教育研修部 教育研修 G 兼 そうごう薬局天神中央店
内容	<p>MS 明朝、10.5 ポイント 800～1000 字程度</p> <p>【目的】 そうごう薬局天神中央店では平成 24 年 6 月より、管理栄養士による患者サポートを開始した。今回、管理栄養士・薬剤師が連携をとり、糖尿病患者の血糖値の改善をめざしアプローチを行なったので、その事例を報告する。</p> <p>【方法】</p> <p>① <u>栄養相談の実施</u> 限られた時間で質の高い効果的な栄養相談を目指し、行動変容理論（ヘルス・ビリーフモデル、トランスセオリアルティカルモデル、行動変容の三原則）に基づいた支援を行った。健康に対する「危機感」、行動をとることの「プラス面（有益性）」「マイナス面（障害となるもの）」を確認し、行動変容ステージの段階に沿った支援を実施した。</p> <p>② <u>指導資料の活用</u> 独自で作成した栄養・運動・疾病のリーフレットや、各医薬品メーカーが提供する資料を精査し、視覚的にも親しみやすく感じられるよう工夫した。</p> <p>③ <u>薬剤師との連携</u> 相談内容を薬歴に記載し、薬剤師と患者情報を共有した。患者からヒアリングした情報は医療情報も含まれる個人情報であるため、適正に管理し継続的な服薬指導・栄養相談が行えるよう記録保管を行なった。また、薬剤師とのカンファレンスも随時行った。</p> <p>【結果】 70代女性DM患者。 2012年7月に初回栄養相談を実施。 医師より1日1,200kcalと指示があったが間食が多く、意識に偏りがある状態だった。食事と血糖値の関係性を説明、間食のエネルギーについてリーフレットで確認した。本人の関心度から、まずはゆっくり食事をとることから始めてみてはと提案したところ、次来局時、よく噛んで食事をするようになったこと、ご家族の協力もあり間食の量も減らすことができたと話があった。 その後定期的に来局され、血糖値が高い状態が続いた時、処方変更に対する不安があった時等に、薬局への相談があり、薬局から病院へ情報提供を行なった。 HbA1c (NGSP) は6月9.0%→8月8.7%に減少した。</p> <p>【考察】 個々の患者にあったケアを実施したことにより、生活習慣の改善に対する関心や満足度を高め、自己管理の継続・定着を促したことによって検査値が改善したのではないかと考えられる。各薬剤師・管理栄養士により異なった指導を行うことを防ぎ、質の高い医療を提供するためにも、それぞれの専門性を活かしながら積極的な情報共有を行い、一貫したアプローチを提供することが重要である。 今後は病院、薬剤師、管理栄養士の連携を強め、「医薬栄連携」を積極的に図っていききたい。</p>